

第1回市民検討委員会 既存事業についての意見

事業名	目的	意見	他の方法で目的を達成できないか	
敬老会	地域の世代間交流により敬老意識を醸成する	参加したくなる工夫をする	交流やふれあい、敬老意識は必要 今までのやり方では継続できない 自由度・柔軟度を持たせて任せる	第3回検討委員会にて検討
		たくさんの方が交流できる方法を考える		
		地区交流センターや町内会など小さい単位で実施する		
		高齢者が増え、担い手が減っている		
		婦人会、市職員のマンパワー不足で運営が困難		
		予算が少なく魅力に欠ける		
		敬老会でなくても祝うことはできる		
		老人クラブやいきいきサロンと連携する		
長寿祝金	高齢者の長寿を祝い、高齢福祉思想の普及を図る	本人が祝金を使えないのに意味があるのか	今のままではNG 祝意や感謝を伝えることは大事	第3回検討委員会にて検討
		88歳が増えているのに祝う必要があるのか		
		賀詞をもらっても置き場所に困る		
		長年頑張ってきた人への感謝の気持ちを忘れてはならない		
		祝金ではなく品物の方が気持ちを感じられる		
		気持ちがこもっていれば金額は関係ない		
		お金をかけずに感謝を伝え、お金は子育て支援等に回す		
健康づくり入浴サービス券支給事業	高齢者の健康維持	行きたくても行けない人にはメリットが無い	利用者が限定的であり不公平 効果が不明 多くの人が平等に使えるサービスへ	第3回検討委員会にて検討
		入浴施設に行く交通手段が無い		
		恩恵を得られる人が限定的		
		健康増進効果の検証が困難		
		入浴剤を配った方が公平で効果的		
		福祉の予算を使う事業ではない		
		外出や交流による心の健康づくりにつながっている		
		訪問入浴サービスを実施してはどうか		
		巡回バスなどの移動支援も必要		
はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業	高齢者の健康増進	対象者のうちたった3%に1300万円もかけている	利用者が限定的であり不公平 効果が不明 介護予防に力を入れるべき	第3回検討委員会にて検討
		交付枚数が多すぎる		
		事業者の自助努力も必要		
		医療費の削減につながっているか不明であり検証も困難		
		子育て支援などに予算を回してほしい		
		元気な人ではなく介護予防が必要な人に対象者を絞る		
		対象年齢を引き上げる		
		介護予防事業にお金を回すべき		